

計画検討委員会 検討資料  
(評価指標算定等資料2)

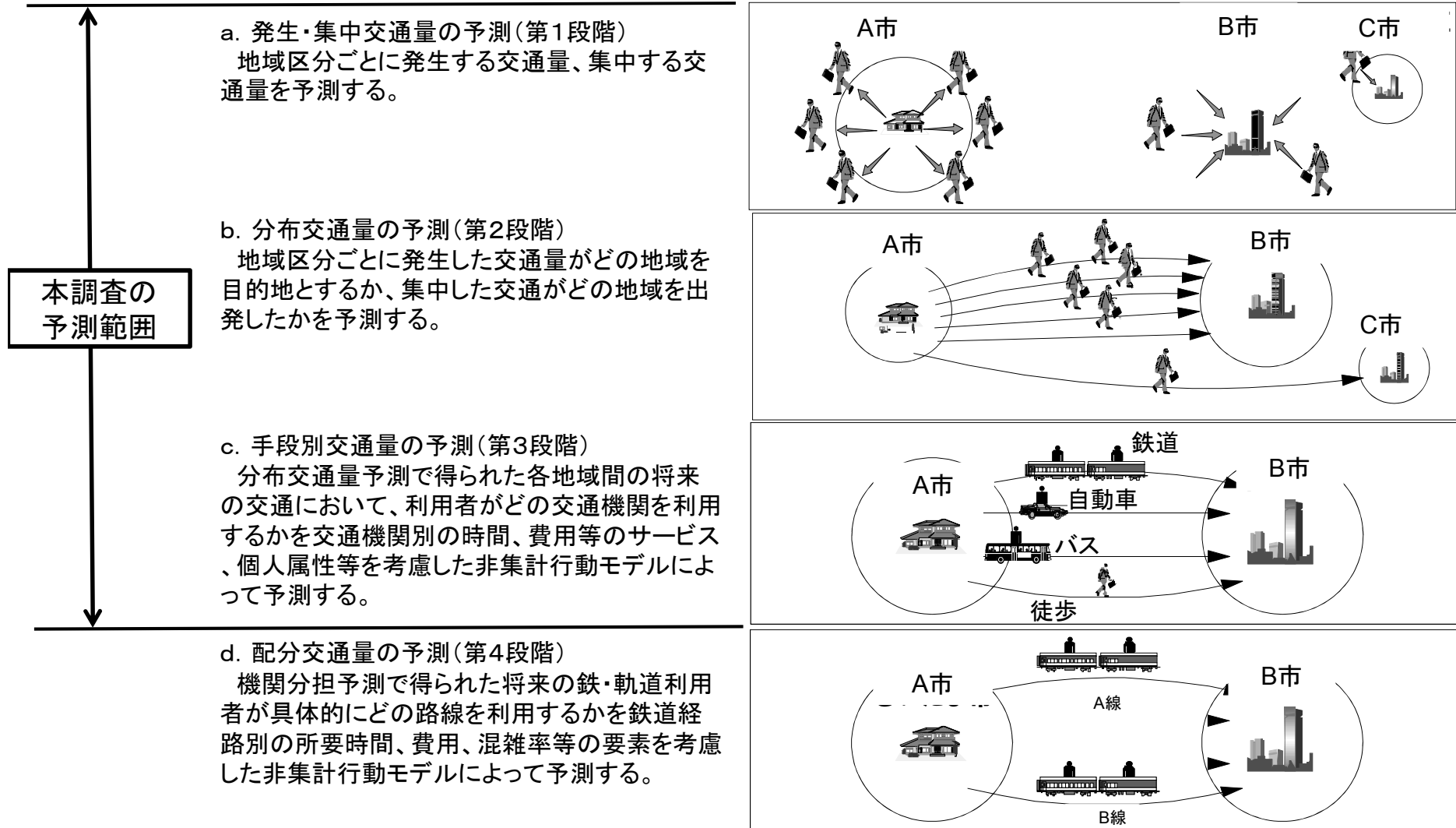
平成28年1月30日  
沖縄県

# 1. 利用者数の算出方法

## ○ 4 段階推定法の概要

4段階推定法とは、将来の利用者数(交通需要)を予測する方法で、「発生・集中交通量」、「分布交通量」、「手段別交通量」、「配分交通量」の4段階に分けて、順次予測する方法である。

本検討では、モノレールと鉄軌道は別の交通手段として取り扱うこととし、沖縄県では鉄軌道の既設路線が無く経路が複数存在することはないため、本調査の予測は、「手段別交通量」までとなる。



## 2. 費用便益比の算出方法

### (1) 費用便益分析の定義、B/Cの算定式

鉄道評価マニュアルにおいて、費用便益分析の定義、B/Cの算定式は以下の通りとされている。

#### ○ 費用便益分析

費用便益分析は、事業実施によって発現する多種多様な効果のうち、貨幣換算の手法が確立されている効果を対象に便益を計測した上で、事業における建設投資額等の費用と比較するものであり、社会的な視点からの事業効率性を評価するものである。

#### ○ B/C

B/C(費用便益比(*CBR: Cost - Benefit Ratio*))

は以下の式によって算出する

$$CBR = \frac{B}{C}$$

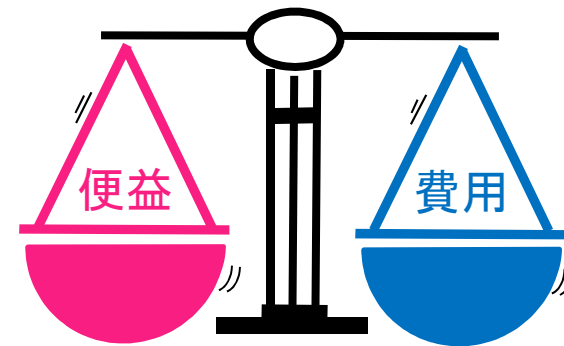
ここで、

B: 総便益[円]

C: 総費用[円]

である。

B/Cは費用(*Cost*)に対する便益(*Benefit*)の相対的な大きさを比で表すものであり、この数値が大きいほど社会的に見て効率的な事業と評価することができる。



出典: 鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル2012改訂版(国土交通省 平成24年7月)

## (2) 費用便益分析の際に本調査で計測する効果

費用便益分析の際に本調査で計測する効果(便益)は、鉄道評価マニュアルで評価すべき効果項目を基本に、貨幣換算手法がほぼ確立されている下図に示した効果(網掛け部分)を計測対象とする。

